

## 大門2

### 問1: 下線部①の段落(第2段落)

設問: 内容と【一致しないもの】を一つ選ぶ。

この段落では、現代におけるインターネットを利用した調査の利点(速さ、効率性、図書館に行く手間の省略など)が述べられている。

- ・正解: ① The smarter you are, the less you use the Internet.
- ・解説: 本文に「インターネットは、探しているものを見つけるための smarter way(より賢明な方法)と見なされている」という記述はあるが、「賢い人ほどネットを使わない」という記述はない。
- ・和訳: あなたが賢ければ賢いほど、インターネットを使わなくなる。
- ・② Information on the Internet comes from a variety of sources.
- ・解説: 本文の「from many and varied sources(多く、かつ多様な情報源から)」という記述と一致する。
- ・和訳: インターネット上の情報は、多様な情報源から得られる。
- ・③ The Internet lets us get information without going to the library.
- ・解説: 本文の「minus the trouble of going to the library(図書館へ行く手間を省いて)」という記述と一致する。
- ・和訳: インターネットは、図書館へ行かずに情報を得ることを可能にする。
- ・④ We tend to depend on the Internet more these days when we do research.
- ・解説: 本文の「drifting further towards the Internet for all our research needs(あらゆる調査のニーズにおいて、さらにインターネットへと流れている)」という記述と一致する。
- ・和訳: 近頃、私たちは調査をする際に、よりインターネットに頼る傾向がある。

### 問2: 下線部②の段落(第3段落)

設問: 内容と【一致するもの】を一つ選ぶ。

この段落では、インターネットの欠点(情報が多すぎて見つけるのが大変な場合があること、情報の正確性の問題など)について述べられている。

- ・① Information on a website can hardly be reliable.
- ・解説: 本文では、情報が間違っていることが「時々ある(sometimes)」と述べているだけで、「ほとんど信頼できない(hardly be reliable)」とまでは言っていない。

- ・和訳: ウェブサイト上の情報は、ほとんど信頼することができない。
- ・② It is much easier to go to the library and use books than to use the Internet.
- ・解説: 本文では「場合によっては(In some instances)、図書館に行って本を使う方が簡単だったかもしれない」と述べているが、常にネットより本の方が「ずっと簡単だ」と断定はしていない。
- ・和訳: インターネットを使うよりも、図書館に行って本を利用する方がずっと簡単だ。
- ・③ The Internet will not let you down, because it has a large base of information.
- ・解説: 本文では、情報基盤が巨大であることが逆に「障害(obstacle)」や「骨の折れる作業(trying task)」になると述べており、期待を裏切らない(let you downしない)という趣旨とは逆である。
- ・和訳: インターネットは膨大な情報基盤を持っているため、あなたを失望させることはない。
- ・正解: ④ The Internet sometimes makes it hard to find what we need due to its wide range of sources.
- ・解説: 本文の「locating exactly what we need is sometimes quite a trying task(正確に私たちが必要な物を見つけるのは、時として非常に骨の折れる作業である)」という記述と一致する。
- ・和訳: インターネットは、その情報源の幅広さゆえに、時として私たちが必要な物を見つけるのを困難にする。

### 問3: 下線部③の段落(第4段落)

設問: 内容と【一致するもの】を一つ選ぶ。

この段落では、本の歴史や、楽しみとしての読書、教育における本の重要性について述べられている。

- ・① 人はごく最近、本を読み始めた。
- ・解説: 本文の冒頭に「Books have been with us for many thousands of years(本は何千も私たちのそばにある)」とあり、矛盾する。
- ・正解: ② 今でも、人は余暇に読書を楽しむ。
- ・解説: 本文の「it is still quite common to read books(本を読むことは今でも極めて一般的である)」や、余暇(spare time)の活動として増えているという記述と一致する。
- ・③ 本はもはや教育において重要性を失った。
- ・解説: 本文では、初等・中等教育、さらに高等教育(tertiary study)においても「major part(主要な役割)」を果たしていると述べている。

- ・④多くの人々が読書よりもテレビ視聴を好む。
- ・解説：本文では「多くの人が、テレビを見ることよりも読書の方がリラックスでき、精神にも良いと言ふだろう」と述べており、逆の内容である。

#### 問4：下線部④の段落（最終段落）

設問：内容と一致するものを一つ選ぶ。

この段落では、コンピュータ時代の到来によって情報の入手手段としての本の役割は減るかもしれないが、楽しみとしての本や、私たちの生活・歴史における本の重要性は揺るぎないものであり、決して消え去ることはないという筆者の主張がまとめられている。

- ・① People depend more and more on books for information these days.
- ・解説：本文の「we may use books less, especially for information purposes（特に情報収集の目的において、本の使用は減るかもしれない）」という記述と矛盾する。
- ・和訳：近頃、人々は情報収集のためにますます本に依存している。
- ・正解：② It would not be difficult for us to see how important books are to our lives.
- ・解説：本文の「We take books for granted, but take them away and we would quickly understand how often they are called upon（私たちは本を当然のものと思っているが、もし本を取り上げられたら、それらがいかに頻繁に必要とされているかをすぐに理解するだろう）」という部分に基づいている。「すぐに理解する（quickly understand）」ことは「難しくない（not be difficult）」と言い換えられる。
- ・和訳：本が私たちの生活にとっていかに重要であるかを理解することは、私たちにとって難しくないだろう。
- ・③ The Internet should be used in place of books for information purposes.
- ・解説：段落の冒頭で、情報の入手手段として本を使う機会が減る可能性には触れているが、インターネットを本の代わりに「使うべきである（should be used）」という主張（勧告）まではなされていない。
- ・和訳：情報収集の目的には、本の代わりにインターネットが使われるべきである。
- ・④ Books as we know them may disappear as the computer age takes over.
- ・解説：本文の「books as we know them will not disappear completely（私たちが知っているような本が完全に消えてしまうことはないだろう）」という記述と明確に矛盾する。
- ・和訳：コンピュータ時代が取って代わるについて、現在のような本は消えてしまうかもしれない。

## 問5:本文全体の内容

設問:本文の内容と一致するものを一つ選ぶ。

本文全体を通して、インターネットの利便性と欠点、そして紙の本が持つ環境への影響や、娯楽・教育・文化における不变の価値について議論されている。

- ・正解: ① The Internet will not replace books when it comes to enjoyment.  
・解説: 最終段落の「for enjoyment purposes, it [the Internet] will never replace the book(娯楽の目的においては、インターネットが本に取って代わることは決してないだろう)」という記述と完全に一致する。
- ・和訳: 楽しみということに関しては、インターネットが本に取って代わることはない。
- ・② The more books we read, the less damage we do to our environment.  
・解説: 第5段落で「the manufacture of books contributes to deforestation(本の製造は森林破壊の一因となっている)」と述べられており、紙の本を読む(製造する)ほど環境への負荷は高まるため、逆の内容である。
- ・和訳: 本を読めば読むほど、環境に与えるダメージは少なくなる。
- ・③ The development of technology prevents us from getting information.  
・解説: 第2段落で、インターネットは情報を探すための「速くて効率的なサービス」であり「より賢明な方法」であると述べており、テクノロジーが情報入手を「妨げている(prevents)」わけではない。
- ・和訳: テクノロジーの発達は、私たちが情報を得るのを妨げる。
- ・④ As times change, we will leave books behind us and forget about them.  
・解説: 第1段落の最後で「私たちは本を置いてきぼりにしてしまうのだろうか?」という問い合わせがなされているが、最終段落で「本は消えるにはあまりにも特別すぎる(too special to us to disappear)」と結論づけており、一致しない。
- ・和訳: 時代が変わるにつれて、私たちは本を置き去りにし、本のことを忘れてしまうだろう。

## 大門2の和訳

何世紀にもわたり、本は発展し変化してきた。インク壺や羽ペンの時代、すべての本がラテン語で手書きされていた頃から、一度に何千冊もの本が印刷される現代に至るまで。21世紀の始まりである現時点で、私たちは本が永遠に存在し、読み、楽しむことができるものだと期待するようになった。しかし、時代は変わり、傾向は異なり、技術は進歩する。今や私たちはコンピュータ時代の中にいると言っても過言ではない。技術とともにさらに前進する中で、私たちは本を置き去りにしていくのだろうか。

最近、私たちはあらゆる調査のニーズにおいて、インターネットへとさらに傾倒している。インターネットは非常に迅速で効率的なサービスであるため、探しているものを見つけるためのより賢明な方法とみなされている。考えうるほぼすべてのトピックについて、多種多様な情報源からの情報が存在する。インターネットによって、本や百科事典から得るのと同様に情報を得ることが可能になるが、図書館へ行き、本を探し、その中から情報を探し出すという手間は省ける。技術が進歩しインターネットがより効率的になるにつれ、調査が必要な際にまず、時には唯一頼るべき情報源としての評判を得つつある。

しかし、物事にはすべて欠点がある。本において情報を探す場所を特定し、その中から情報を見つけるのが難しい場合があるのと同様に、インターネットも時として助けになるどころか障害になることがある。インターネットには膨大な情報基盤があるため、私たちが必要としているものを正確に突き止めることは、時として非常に骨の折れる作業となる。場合によっては、図書館に行って本を使った方が簡単だったかもしれないと思うこともある。インターネットで検索している際に直面するもう一つの問題は、その情報が正しいかどうかである。私たちは時として、ウェブサイト上の情報から誤った考えを持ち、自分が書き留めていることが間違っていることに気づかないことがある。

本は何千年も私たちのそばにあり、一般的に娯楽の目的で利用されている。本で物語を読むことは古くからの娯楽であり、余暇に行うことができる活動の種類は長年で劇的に増加したが、本を読むことは今でも極めて一般的である。多くの人は、テレビを見たりコンピュータの画面を見たりするよりも、読書の方がリラックスでき、精神にも良いと言うだろう。もちろん、本は娯楽目的のためだけに使われるのではない。教育のためにも使われ、初等・中等教育、そして高等教育においても大きな役割を果たしている。

しかし、本を使うことの一つの欠点は、それらが一般的に紙から作られており、当然ながら紙は木、つまり切り倒さなければならなかつた木から作られているということだ。したがって、本の製造は森林破壊の一因となっている。環境的な観点から言えば、読書の目的で紙の本以外の情報源を利用することは、森林へのダメージを減らすことになるだろう。樹木を回復させることができになり、これは全般的に、より良い世界環境に貢献することになる。

コンピュータ時代が取って代わるにつれ、特に情報収集の目的において、本の使用は減るかもしれない。しかし、私たちが知っているような本が21世紀に完全に消えてしまうことはないだろう。本は私たちの日常生活にとってあまりにも重要だからだ。私たちは本を当然のものと思っているが、もし本を取り上げられたら、それらがいかに頻繁に必要とされているかをすぐに理解するだろう。たとえインターネットがより効率的で信頼できるものになったとしても、娯楽の目的において、インターネットが本に取って代わることは決してないだろう。本は私たちを自らの起源、伝統、歴史、そして未来へと結びつけてくれる。本は、消えてしまうにはあまりにも特別すぎる存在なのだ。

## 大門3

### (1) 解答:③

#### 【解説】

- ・文脈の把握: Aが「疲れているようだが、どうしたのか」と尋ね、Bが「宿題で徹夜した」と答えている。
- ・空所の後: Bが「分かっているけれど、日中は他にやることがあるんだ」と返答している。
- ・選択肢の検討: Bの「I know, but... (分かっているけど……)」という反応から、AはBの行動に対して忠告や批判をしたことが推測できる。
- ・①「そんなに遅くなかった」: 文脈に合わない。
- ・②「やることがたくさんあったのか？」: Bの返答と噛み合わない。
- ・③「もっと計画的に物事を進めるべきだ」: これに対しBが「分かっているけど(日中が忙しくてできない)」と返しており、最も自然である。
- ・④「全部終わらせることができたか？」: Bの返答と繋がらない。

### (2) 解答:②

#### 【解説】

- ・文脈の把握: Aが「散歩に行こう」と誘い、Bが「どこへ行けるか」と場所を尋ねている。
- ・空所の後: Bが「そうだね、新鮮な空気が吸えるね(get some fresh air)」と同意している。
- ・選択肢の検討: 「新鮮な空気が吸える場所」というBのコメントに合う場所を提案している選択肢を選ぶ。
- ・①「(行くことが)できるね」: 場所の提案になっていない。
- ・②「山へ登ろう」: 新鮮な空気を吸うという文脈に最も適している。
- ・③「図書館へ行くのはどう？」: 屋内なので「新鮮な空気」とは結びつきにくい。
- ・④「ジョンのアパートへ行こう」: 同様に屋内のため不自然。

### (3) 解答:①

#### 【解説】

- ・文脈の把握: Aがコーヒーの好みを尋ねている。

- ・空所の後: Aが「本当に? 私には強すぎる(too strong)」と言い、Bが「私は強く、かつ甘くない(not sweet, either)のが好きなんだ」と答えている。
- ・選択肢の検討: Bの「強く、甘くない」という好みを表す表現を探す。
- ・①「ブラックで、砂糖なしで」: Bの好みに合致する。
- ・②「欲しくない」: 注文自体を断っており、後の会話と矛盾する。
- ・③「ブラックで、砂糖たっぷりで」: 「甘くない」という後の発言と矛盾する。
- ・④「ミルクたっぷりで、砂糖なしで」: ミルクを入れると「strong」という表現とは逆の方向になる。

(4) 解答: ④

【解説】

- ・文脈の把握: Aが「誰がゴミを出すか」と聞き、Bが「自分がやる」と言う。Aは「でも前回も君がやったじゃないか(悪いからいいよ)」と遠慮している。
- ・空所の後: Bが何か理由を述べて、自分がやることを正当化する場面。
- ・選択肢の検討:
- ・①「忙しすぎる」: 自分がやると言ったことと矛盾する。
- ・②「それは不可能だ」: 意味が通じない。
- ・③「君は覚えていない」: 文脈に合わない。
- ・④「どのみち外出するから」: 外出のついでだから手間ではない、という理由になり、Aの遠慮に対する返答として最も自然。

(5) 解答: ④

【解説】

- ・文脈の把握: 空港のチェックインカウンターでの会話。Aが「預ける荷物(check in)は何個か」と聞き、Bが「このスーツケースだけだ」と答える。
- ・空所の後: Bが「Yes, I did.(はい、しました)」と答えている。
- ・選択肢の検討: 「did」で答えられる、過去形のYes/No疑問文で、かつ空港でよく聞かれる質問を探す。
- ・①「それはあなたのものか?」: 答えは「Yes, it is.」になるはず。
- ・②「重さはどれくらいか?」: 具体的な数値を答える質問。
- ・③「スーツケースを持っていたか?」: 今までに目の前にあるので不自然。

- ・④「自分でパッキング(荷造り)したか？」: 保安上の確認として定番の質問であり、「Yes, I did.」という答えとも一致する。

(1)

A: 疲れているようだが、何があったのだ？

B: 宿題をしていて一晩中起きていた(徹夜した)のだ。

A: もっと計画的に物事を進めるべきだ。

B: 分かっているが、日中は他にやることがあるのだ。

(2)

A: 散歩に行こう。

B: それはいい考えだ。どこへ行けるだろうか？

A: 山へ登ろう。

B: そうだね、新鮮な空気が吸えるな。

(3)

A: コーヒーの好みは(どのようにして飲むのが良いか)？

B: ブラックで、砂糖なしで頼む。

A: 本当か？ 私には強(濃)すぎる。

B: 私は強いのが好きなのだ。それに、甘くない方がいい。

(4)

A: 誰がゴミを出しに行くのだ？

B: 私がやろう。

A: しかし、前回も君がやったではないか。

B: どのみち外出するから(構わない)。

(5)

A: 荷物をいくつ預けたいか？

B: このスーツケースだけだ。

## 大門4

(1) よくあることだが、エマは家にいなかった。

解答: ⑤ (is)

### 【完成文】

Emma was not home, as ○ is often the case with her.

### 【解説】

「(人)にはよくあることだが」という慣用表現 "as is often the case with ~" を用いる。

文の構成は以下の通りとなる。

1. home (④) : "not home" で「家にいない」

2. , (カンマ)

3. as (①)

4. is (⑤) : ○の箇所(26番)

5. often (⑥)

6. the (⑦)

7. case (③)

8. with (⑧)

as は擬似関係代名詞として機能しており、文全体を先行詞としている。

(2) 私は彼に家賃を前払いしてくれと言った。

解答: ⑧ (pay)

### 【完成文】

I asked him to ○ pay his rent in advance.

### 【解説】

「Aに～するように頼む(言う)」という "ask A to do" の構文と、「前もって」という熟語 "in advance" を組み合わせる。

1. asked (3)
2. him (7)
3. to (4)
4. pay (8) : ○の箇所(27番)
5. his (1)
6. rent (6)
7. in (2)
8. advance (5)

「家賃」は his rent とすることで、選択肢の語をすべて過不足なく使用できる。

(3) 彼はとても運がいいのでうらやましい。

解答: ⑥ (man)

#### 【完成文】

He is so lucky a ○ man that I envy him.

#### 【解説】

「非常に～なので…だ」という "so ~ that ..." 構文だが、形容詞 lucky が名詞 man を修飾する場合、語順が "so + 形容詞 + a + 名詞" となる点に注意が必要だ。

1. so (7)
2. lucky (5)
3. a (1)
4. man (6) : ○の箇所(28番)
5. that (8)
6. I (4)
7. envy (2)
8. him (3)

通常の such a lucky man と同じ意味だが、so を使う場合はこの語順になる。

(4) 彼女はドラマに何本か主演したが、どれも1シーズンしか続かなかった。

解答: ③ (which)

### 【完成文】

She starred in a series of dramas, none of ○ which lasted more than one season.

### 【解説】

カンマの後に「それらのどれも～ない」という意味を続けるため、関係代名詞 which を用いた "none of which" の形を作る。

1. none (⑥)
2. of (⑤)
3. which (③) : ○の箇所(29番)
4. lasted (⑧) : 「続く」という動詞
5. more (④)
6. than (⑦) : more than で「～より多い(～以上)」
7. one (①)
8. season (②)

先行詞は a series of dramas である。

(5) タバコはご遠慮いただけないとありがたいのですが。

解答: ⑧ (you)

### 【完成文】

I would prefer it if ○ you did not smoke.

### 【解説】

「～していただけないとありがたい(～のほうが好ましい)」という丁寧な依頼の表現 "I would prefer it if + 主語 + 動詞の過去形" を用いる。

1. I (②)
2. would (⑦)
3. prefer (⑥)
4. it (④) : 形式目的語の it

5. if (③)

6. you (⑧) : ○の箇所(30番)

7. did (①)

8. not (⑤)

if 節の中を過去形(仮定法過去)にすることで、直接的な表現を避け、控えめで丁寧なニュアンスになる。